

ゼリー付き改良新剤形

モリモト医薬 飲み合わせ容易に

モリモト医薬（大阪市西淀川区、盛本修司社長）は、錠剤やカプセルを飲みやすくする服用補助ゼリー付き製剤の新剤形「G-T剤プラス」を開発した。高齢者ら飲み込む力が弱くても服薬が容易な「易服薬製剤」の一種。錠剤やカプセルと服用補助ゼリーをセットにした従来の「G-T剤」を改良。飲み合わせの薬を入れるためのポケットを付け、まとめて飲めるようにした。経口抗がん剤などの高付加価値製剤として需要を見込む。



G-T剤プラスは区切りのあるフィルムパツケージ内に錠剤やカプセルを充填して折り畳んだ形状。カバーを外すと

出て来るポケットに飲み合わせる薬を入れる。ポケットの開口部を口にくわえて補助ゼリーを錠剤などがある折り畳んだ状態(ⓐ)を広げると、ポケットと錠剤・カプセル、服用補助ゼリーが並ぶ(ⓑ)。

方へ押し出すと区切りの接着部が離れる。セットの薬やポケットに入れた薬を補助ゼリーが包み込み、飲み込みやすい状態で口に入る。

新薬やシエネリックのメーカーから錠剤などを受け取り、最適なゼリーやパツケージ、製法を選定する製剤設計・開発を引き受ける。量産は医薬品製造品質管理基準（GMP）基準を満たした医薬品受託メーカーに技

術移管する方針で選定を進めている。

高付加価値製品を主なターゲットとする。経口抗がん剤は飲み込む力の弱い患者が多い上、大半の場合に複数の飲み合わせの薬がある。さらに劇薬のため人が触れるリスクを低減する需要が大きく、同製剤の利点を生かせるとみている。